



“学生参画型FD”特集

Contents

“学生が変える日本大学”と題した初の全学的な学生FDイベント
「日本大学 学生FD CHAmmit 2013」開催 **2**

学生×教員×職員で語る
“学生参画型FD”の日本大学における可能性 **4**

COVER PHOTO

「日本大学 学生FD CHAmmit(ちゃみっと) 2013」での「オール日大ミーティング」の様子。学生・教員・職員が学部・学科混合のグループとなり、受けている授業の良い点や改善点について意見を出し合った。

“学生が変える日本大学”と題した初の全学的な学生FDイベント 「日本大学 学生FD CHAmmit 2013」開催

平成26年2月26日、法学部10号館において「日本大学 学生FD CHAmmit 2013」が開催されました。全ての学部・学科を対象に参加者を募集したところ、学生90人と教職員41人が集結。学生・教員・職員の混合グループで、授業について本音を語り合いました。

◎学生が企画・運営を担当

本学で初めて、全学の学生・教員・職員が参加するFDイベントが行われました。これは、学生FDを続けてきた文理学部学生FDワーキンググループのメンバーなどによる「全学的に大学の授業をよりよくするための話し合いができないか」との声を反映させたものです。

「CHAmmit」という名前は、学生と教職員の発想で生まれました。「Chat」と「Summit」を組み合わせた造語であり、「気軽にまじめな話をみんなでする」という思いが込められています。

イベントの企画・運営は、全14学部・通信教育部の代表者20人で組織された「学生コアメンバー」が担当しました。学部・学科が異なるだけでなく、学年も全学年から集まりました。また、オブザー

バーおよび教職員スタッフとして、全学FD委員会委員の教員、学務部教育推進課の職員も参加しました。

関係者全員が参加したミーティングは、前年11月から当日まで計4回行われました。学生FDに関心があり、学生コアメンバーとなった学生でも、大半がFDを行うのは初めてでした。そこで、他大学の学生FDサミットの映像を見たり、学生個々にインターネットで調べたりして、どのような企画がよいか意見を出し合い、プログラム一つひとつを練り上げていきました。



参加者とスタッフ合わせて167人が集まった。

学生コアメンバー代表の瀬良兼司さん（商学部3年）は、「FD活動では、学部や学科が異なる学生同士でも、『授業』という共通のテーマで話し合うことができる。全学の学生が混ざり合い、気軽に楽しく本音を話せるようなイベントをめざした」と企画への思いを語りました。

◎寸劇やクイズで学生FDを説明

イベントは、「共同企画」と「学生参画型企画」を中心に進められました。

「共同企画」は、学生FDを先駆的に進めている岡山大学教育開発センター准教授で、本学文理学部卒業生でもある天野憲樹氏*と、文理学部学生FDワーキ



「学生FD」について解説する岡山大学の天野准教授。

プログラム

11:00 - 11:05 オープニングスピーチ

- 全学FD委員会プログラムワーキンググループリーダー 商学部 村田英治教授

11:05 - 11:55 共同企画

◎日大学生FD入門

- 岡山大学教育開発センター 天野憲樹准教授
- 文理学部学生FDワーキンググループ

11:55 - 12:05 企画等説明

- 全学FD委員会プログラムワーキンググループメンバー 短期大学部船橋校舎 羽入敏樹教授
- 本部学務部教育推進課主任 後藤裕哉
- 学生コアメンバー代表 商学部3年 瀬良兼司

12:15 - 15:50 学生参画型企画

◎12:15 - 12:35 学部ミーティング①

◎オール日大ミーティング

- 12:45 - 13:15 ランチ会
- 13:15 - 14:15 ちゃみっとーく!
- 14:15 - 14:35 ちゃみっとーく! 発表会

◎14:45 - 15:50 学部ミーティング②

15:50 - 16:00 エンディングスピーチ

- 全学FD委員会プログラムワーキンググループメンバー 芸術学部 原直久教授
- 学生コアメンバー代表 商学部3年 瀬良兼司

16:10 - 17:00 懇親会

日本大学における“学生参画型FD”活動

日本大学では、FDを「自主創造の理念の下に日本大学を取り巻く外的諸要因をも分析して、学問領域単位（学科・専攻等）での教育プログラムを常に見直し、それを実行するため、教員が職員と協働し、学生の参画を得ながら組織的に取り組む諸活動」と定義しています。

日本大学FD推進センターは、基本計画（中期計画）の中で「学生参画型FD活動の整備・強化」を掲げ、学修の主体者である学

生の視点を捉えたFD活動を推進しています。これまで、学生が参画するFD活動として、『日本大学FDガイドブック』に係る学生との意見交換会や学生と教職員によるFD座談会などを開催してきました。さらに、今回、中期計画に盛り込まれている「学生FDスタッフの体系的かつ効果的な活用並びに支援」を具現化し、「学生参画型FD活動の整備・強化」に向けた第一歩を進めたところです。

ンググループによるコラボ企画です。学生による寸劇、動画、クイズによって、「学生FDとは何か」を参加者に分かりやすく伝えました。寸劇と動画は、3人の学生が授業を受けている時の気持ちを語り、一方で教員が授業を行う時の悩みを吐露するという内容でした。続いて行われたクイズでは、「どんな活動が学生FDか？」など11の質問に赤と青のカードを掲げて答えながら、参加者は学生FDの理解度をチェックしました。



寸劇によって優秀な学生、ありふれた学生、授業が嫌いな学生の本音を交え、学生FDとは何かを分かりやすく紹介。

学生参画型企画に入る前に行われた「企画等説明」も、特徴的です。瀬良さん、全学FD委員会プログラムワーキンググループの羽入敏樹教授（短期大学部船橋校舎）、学務部教育推進課主任の後藤裕哉氏の3人が、話し合いの寸劇を行いながら、発言の仕方や話の聞き方などの良い例と悪い例を示しました。「CHAmmiT」が、参加者それぞれが本音を話して聞いて、深く議論し、個々の発想が広がるような場をめざしていることを、参加者に深く印象づける内容でした。

◎3回のグループ討論で課題を整理

「学生参画型企画」では、「自分が受けている・教えている授業はどんなものか」について話し合われました。

プログラムは、まず、同じ学部の学生と教職員が集まって話す「学部ミーティング」、次に学部・学科混合の6～8人のグループで協議する「オール日大ミ



「学部ミーティング」では、KJ法を用いて意見を整理。皆、初対面であったが、積極的に発言していた。

ティング」、そして、再び「学部ミーティング」で具体策を検討するというワールド・カフェ方式が採られました。

最初の「学部ミーティング」では、所属学部の授業の良さや課題を明確にしていきました。その結果を持ち寄り、「オール日大ミーティング」で「学部ならではの楽しい授業・実習」をテーマに討議。学生が自分の所属する学部の授業を紹介した後、良いと思う授業、面白くないと思う授業について意見を出し合いながら、自分たちが望む授業とは何かを考えていきました。

その後、グループごとに発表を行い、話し合いの結果を共有。「教員と学生の距離が近くて変化のある授業」「これからの授業づくり」といったテーマを設定して話し合ったグループや、「教育、学生、学修」などに発言をまとめながら課題を整理したグループなどがあり、さまざまな意見が出てきた様子が見えま



「オール日大ミーティング」では、グループごとに発表し、話し合った内容を共有した。

そして、2回目の「学部ミーティング」では、「オール日大ミーティング」での内容を持ち寄りながら、学部にとって「今後に生かせそうな点や改善点の具体策」を話し合いました。他学部の状況を知ったため、所属学部の改善点だけでなく、良さを改めて感じたという意見も多く出されていました。

最後に、三つの学部により全体発表が行われました。「TAの研修をして指導

の質をそろえる」「課題に対するコメントをフィードバックする」など、学部の課題に応じた提案がなされました。

◎学生FDの広まりに期待

日本大学全体としては初めての学生FDイベントでしたが、学生コアメンバーによって企画がよく練られていたため、ミーティングの内容が非常に濃く、教育の質向上に直結しそうな提案が多数見られました。これらが一部の意見ではなく、全学部の学生に共通していたことにも意義があります。

懇親会では、天野准教授から「他大学の学生FDイベントを上回る、充実した内容だった」と賛辞をいただきました。また、学生コアメンバーの今宮加奈未さん（文理学部4年）は、「どの学部・学科もほぼ欠けることなく集まったのは、すごいこと。活発なグループ討論ができ、念願のイベントが成功できた」と謝辞を述べました。

参加者の大半が初対面で、グループ討論は始めごちない雰囲気でしたが、話し合いが進むにつれ、打ち解けた様子が見て取れました。参加者からも、「思ったより学部間の壁はなく、フランクに話せてよかった」（経済学部3年）という声が多く聞かれました。

参加者アンケート結果を見ると、イベント前に学生FDを知っていた学生は2割もいませんでしたが、イベント後は「学生FDを理解できた」と8割が回答しました。「学部に戻り、学生FDについて何か行動を起こすか」という質問には、「必ず」11%、「機会があれば」58%との回答があり、肯定的な姿勢が見られました。「学部の課題が見えてきた。学生FDを自分の研究室から広げていきたい」（工学部3年）という意見も寄せられました。

羽入教授は、「学生FDを啓発する意味でも、『CHAmmiT』は大成功だった。これを起点に学生FDを各学部に普及させたい」と、今後の課題に、学部でのイベント開催を挙げました。学生FDの浸透を各学部に期待したいところです。

次回の「日本大学 学生FD CHAmmiT」の詳細は、日本大学FD推進センターのウェブサイトをご覧ください。



「学部ミーティング」の内容をまとめた「学部FD報告書」の発表は、法学部、理工学部、医学部が行った。

学生×教員×職員で語る

“学生参画型FD”の日本大学における可能性

「日本大学 学生FD CHAmmit 2013」を企画・運営した学生コアメンバー2人と、イベントにかかわった教員・職員が、平成26年3月18日、日本大学における“学生参画型FD”の今後の可能性について語り合いました。

◎学生の声を生かす組織的な体制が必要

大嶽 二人は学生コアメンバーになる前に、学生FDについて知っていましたか。

安田 文理学部FD講演会で「FDは授業をもっと良くするための活動」と聞き、文理学部学生FDワーキンググループに入りました。授業にはとても満足していましたが、楽しいからこそ、もっと良くしたいと思ったからです。

浅野 私は学生コアメンバーになって初めて学生FDを知りました。不満のある授業があり、先生に私の考えを提案したのですが、話をあまり聞いてもらえませんでした。そんな時に学生コアメンバーの話をいただき、この状況を変えられるかもしれないと期待して参加しました。企画運営担当代表となり、リーダーに求められる資質を学びました。

羽入 学生FDは文理学部が先進的に行っていますが、全学的な学生参画型FDには授業評価アンケートがあります。

浅野 前期の最初のガイダンスで、前年度の授業評価アンケートの結果を公表し、今年の授業の方針を示してくださる先生もいます。一方で、結果を考慮されていないように感じる先生もいます。

安田 前期末に学生に独自アンケートを行い、そこで出た意見を後期に反映した先生がいました。学生の中に授業を一緒につくっているという当事者意識が生まれて、前期の授業は活気があまりなかったのですが、後期の授業では皆、積極的に発言していました。

大嶽 授業評価アンケートの結果は、教員によって活用の仕方がまちまちであるのが実態です。アンケートを実効性のあるものとするためには、結果を組織的にどう活用するかが課題になっています。

浅野 答えても無駄だからと、アンケートを軽視する学生がいなくなるよう、ぜひ改善してほしいと思います。

◎学生ならではの企画で大成功

大嶽 今回の「CHAmmit」はアンケートの評価が高く、全学的な学生FDの第一歩となりました。ゼロから立ち上げた企画で成功した意味は大きいと思います。

羽入 学生ならではの発想が随所に盛り込まれたことが、成功の要因でしょう。「討論会」ではなく、「ちゃみっとーく！」だからこそ気軽に話せたし、学部と全学の討論を行き来する構成も、本学ならではの見事なアイデアでした。



学生・教員・職員とそれぞれの立場で、学生FDに対する意見を交換。

安田 他大学ではトップダウン型の学生FDが多いようですが、今回は学生が発案し、企画・運営も行いました。その活動を教職員が引っ張る形でした。ボトムアップ型の「CHAmmit」は、他大学から既に注目されていると聞いています。

大嶽 今回は各学部に参加者を募りましたが、次回以降、いかに多くの学生・教員・職員に広めるかが成否の鍵となりそうです。三者がそれぞれ自由に意見を出し合いながら、大学をさらによくしていくという文化を根付かせたいと思います。

安田 これまで、意見を持っていても、学生が発言できる場がありませんでした。しかし「CHAmmit」によって、学生も大学の取り組みに参画できるという意識の転換がなされたと思います。

浅野 工学部の「学部ミーティング」ではいろいろな案が出て、皆、意見を持っていると分かりました。今後、工学部で「CHAmmit」を開催するのが目標です。

羽入 今回は学生の潜在能力をあらためて感じました。皆さんの力に期待しつつ、「CHAmmit」を継続的にを行い、まずは学生FDを浸透させていきましょう。



学生コアメンバー 安田結城さん(文理学部3年) 学生コアメンバー 浅野和香奈さん(工学部2年)



全学FD委員会プログラムワーキンググループ 羽入敏樹 課長補佐 教授(短期大学部船橋校舎) 学務部教育推進課 大嶽龍一 課長補佐

※本ニュースレターに記載した役職・資格・学年等は、平成26(2014)年3月現在のものです。

なお、天野憲樹氏は、平成26(2014)年4月1日付けで埼玉大学教育機構基盤教育研究センターに教授として着任されました。

日本大学 FD NEWSLETTER 第6号

発行日: 平成26(2014)年6月1日

発行所: 日本大学FD推進センター センター長 牧村正治

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 電話:03-5275-8314 FAX:03-5275-8315

e-mail:adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/about_nu/effort/fd-center/

所管部署: 日本大学 本部 学務部教育推進課

企画・編集: 日本大学全学FD委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部教育推進課(adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp)へお寄せください。

本ニュースレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright(C)Nihon University 2014 All Rights Reserved.